

昭和 62 年 12 月 20 日

発行：海外養殖魚研究会

事務局：〒102 東京都千代田区麴町4-5 第7麴町ビル 555号

榊国際水産技術開発内

TEL:03-234-8847

第41回海外養殖魚研究会が、昭和62年12月18日(金)午後3時半～5時半に農林水産省水産庁会議室で行なわれました。今回は、中国海南島の養殖事情をOAFIC(株)の加藤泰久氏に、南太平洋におけるミルクフィッシュの養殖についてを国際水産技術開発の加福竹一郎氏に講演をお願いしました。今回の出席者は以下の通りです。

加藤泰久(OAFIC)、白旗総一郎(海外漁業協力財団)、永井康豊(日本配合飼料)、松里壽彦(農林水産省農林技術会議)、山下正夫、平岩守考(日商岩井水産部)、小林次彦、川口幸生(泰東製網)、中山泰広、斎藤悟(函館公海漁業)、貫山義徹(日本捕鯨)、赤井正夫(海洋水産資源開発センター)、小林茂夫、並里次雄(建設企画コンサルタント)、中島雅樹(水産経済新聞社)、加福竹一郎、利田舜史(国際水産技術開発)

テーマ 1. 中国、海南島の養殖事情

加藤泰久(OAFIC)

海南島の地域概要 : 海南島は中国の最南端に位置し、面積は日本の九州よりやや小さいぐらいである。近く特別省に昇格の予定がある。

海南島の養殖形態 : 生産面積は海面で 25,000hr、淡水区で 4,800hrであり、1984年の生産量は海面で 700t、淡水で 7,000t で、同年の広東省の生産量は、海面で 2,000t淡水で 400,000t である。

貝類養殖 : 海南島の北部域でサルゴ一貝の地播養殖が行なわれており、240～300/Kgの稚貝を 3元/Kgで購入、1～2年で100/Kgでマーケットサイズになり、2.8元/Kgで販売している。生産量は15～20t/hrと生産性が悪い。カキ(7Xカ種)は、5cm角のコンクリート柱に種付けされ、潮間帯に刺して養殖している。販売価格は 0.8元/Kgである。また、南部では真珠養殖が行なわれている。しかし、真円のものは出来ていない。

海藻養殖 : 南部地域では、オゴノリの養殖が行なわれており、地元で寒天加工している。50元/Kgで取り引きされている。その他、キリンサイがある。

魚類養殖 : 南部域では、ハタを網いけす(3m x 3m) 500基で養殖し、60tの生産が1986年にあった。販売価格は100元/Kgで、活魚で香港市場に出荷している。種苗は、フィリピンと福建省から購入している。飼料は、近隣の雑魚を使用している。最近杭州では、人工種苗生産に成功している。

その他、ノコギリガザミの蓄養やタツノオトシゴ(漢方薬)の養殖がある。

淡水養殖：ソウギョ、レンギョ、コイ、テラピア（福寿魚）等が養殖されている。種苗生産量は、総数で年間2億尾である。配付価格は、300元/1万尾である。テラピアは、ニロチカとモザンビカのハイブリットで養殖している。ダム湖などでは、生産性が悪い。池中養殖では、15t～24tの生産量である。

エビ養殖：北京政府の命令で1990年までに6,000haの養殖池造成を目指している。また、オゴノリの養殖地を転換している。天然種苗の確保は、東海岸に採集適地がある。種苗生産の適地は、淡水の取得が容易な北部域である。生産目標は、1990年に4,500tを見込んでいる。飼料は、台湾産と本土産があり、6元/Kg、1.5元/Kgの物が使用されている。

## テーマ 2. 南太平洋におけるミルクフィッシュの養殖 加福竹一郎（国際水産技術開発）

サバヒー（ミルクフィッシュ）は広塩性の魚で、淡水にも海水にも生息できる。分布は、ほぼ太平洋全域に及び、これまで、台湾、フィリピン、インドネシアを中心に養殖が行なわれて来たが、近年、太平洋諸島の国々でも関心が高まりつつある。例えば、次期のJICAプロジェクトでとりあげられるトンガやフィリピンからの移民が多いサイパン、パラオなどで関心が高い。この他、本格的養殖の行なわれている国にキリバチがある。

サバヒーは、水深30cm程度の浅い池で、池底にはえるBlue green algaeを餌として成長し、しかも、生産量（普通1-2t/ha）が高いので、今後も動物タンパク供給源として重視すべき養殖魚である。

以上、簡単に話したが、近々、加福、横川の共著で＜サバヒー養殖の手引き＞としてJOCV（後に海外養殖魚研究会）から出版されるので、皆様のお手元に配布する予定です。